

第5回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議録概要

日 程：平成24年11月19日（月）15：30～17：00

場 所：熊本市市民活動支援センター・あいぽーと会議・セミナー室

出席者：明石委員長、前田副委員長、木下委員、水野委員、宮本委員、
平塚委員

欠席者：石櫃委員

明石委員長	ただいまから第5回熊本市市民公益活動支援基金運営委員会を開催します。 配布資料の確認を事務局より確認をお願いします。
事務局	事務局でございます。 (事前送付資料) 資料1 熊本市市民公益活動支援基金の協議事項 資料2 平成25年度くまもと・わくわく基金助成事業予算について(案) 資料3 その他の審議事項について 資料5 熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金平成24年度 助成団体 中間報告会&交流会のご案内(案) (当日配布資料) 資料2 平成25年度くまもと・わくわく基金助成事業予算について(案) の差替え 資料4 平成25年くまもと・わくわく基金助成事業のご案内(案) 資料6 今後のスケジュール(案) 資料7 第4回熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議録概要(案) 以上です。 資料7会議録概要(案)について、内容ご確認いただきまして、修正などあ れば11月26日(月)までに、事務局へお知らせをお願いします。
明石委員長	議題1 第3回の協議事項の確認 第4回運営委員会が助成事業の審査会でしたので、随分以前の内容にはなっ てしまいますが、確認の意味を含め、第3回運営委員会において、審議し、決 定した事項について、事務局から報告をお願いします。
事務局	第3回の協議事項の確認をさせていただきます。 資料1をご覧ください。P1からP5に関しては、第2回運営委員会までの 審議内容でございますので、割愛させていただきます。 P6の下、第3回運営委員会で決定した事項については、青色の枠囲みをし

ております。青の枠囲み部分について確認させていただきます。

まず、選考基準の項目についてですが、政令指定都市になったのを機に制定された基金であるため、地域の課題等に重きを置いた事業に対して、その熊本らしさという部分に特化したいという事務局提案を承認いただき、「地域の課題・特性（熊本らしさ）」について2倍の重み付けをするということになりました。

次にP8をお願いします。

朱書き部分です。既に9月に審査会は終了しておりますが、平成24年度の助成事業二次審査進出団体の選定方法についてご審議をいただきました。「一次審査の採点を集計し、その結果を基に、上位団体から助成枠相当数の2倍の数の団体を二次進出団体とする」という事務局案を提案しましたところ、「2倍など具体的には決めず、全体の時間と調整し、6～8団体を二次審査進出団体（案）として事務局案で提案し、委員長に確認していただき、市が決定する」ということで決定いたしました。それに従い実際このように進めさせていただきました。

次に、P9をお願いします。②助成団体決定方法についてです。

第一次審査と第二次審査の点数を合算するかしないかについて、審議をいただきました。結論としましては、一次審査は二次審査に進む団体を決める予備的なものと位置づけ、二次審査における書類審査と公開プレゼンテーションで決定する。ということに決定し、平成24年度の助成事業の審査会もそのように進めさせていただきました。

次に ③審査の方法ですが、

- ・0点は設定しない。
- ・一次審査は、A（1ふつう、2よい、3とてもよい）とする。
- ・二次審査は、A（1わるい、2ややわるい、3ふつう、4よい、5とてもよい）とする。
- ・なお、表現については（「1わるい、2ややわるい」）を工夫することということで、表現については、「1かなり劣る、2劣る」に修正しまして、平成24年度については実施させていただきました。

次にP10です。基準点についてです。

- ・一次審査の基準点は、49点とする。
- ・二次審査の基準点は、「市民の寄附を助成するため厳しさも必要」「基金の趣旨から団体を育てることに重点を置いている」ことによりまして、全体の50%（105点）以上とすることで決定しました。また、「団体を育てる仕組みをつくることも重要」というご意見もいただいております。

P11をお願いします。寄附金の取扱いについてですが、(3)の①一般寄附

	<p>の充当ルールについては、一般寄附があった場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ助成 ・分野指定助成（特に「その他」の枠） ・団体応援助成の加算枠（1件上限20万円） <p>にどのように配分するかを、年度ごとに委員会で決定するという事で承認をいただいております。</p> <p>②分野指定寄附のうち10%をスタートアップ助成の財源とする。 についてもご承認いただきました。</p> <p>③団体応援助成への寄附があった場合、必ずしも、全額が助成されるわけではないとしているため、新たな考え方として、スタートアップ助成にその一部を当てるということを事務局で提案をいたしました。④に記載してありますとおり、10%をスタートアップ助成に回すときは、年数の制限なく持越をすることができるとした場合、税務署より「ひも付き寄附」の疑念があるとの見解がありましたので、この案は取り下げさせていただきました。</p> <p>よって、「団体応援寄附」はスタートアップ助成にはまわさない。ということでご承認いただきました。団体応援寄附の持ち越しルールは、団体応援寄附金を団体応援助成として申請できる年度を2年度までとし、それを経過したものは、一般寄附に充当する。ということと決定しました。</p> <p>次にP12です。冠寄附の運用について、事務局で提案させていただきましたが、原案のとおりご承認いただきました。</p> <p>次にP13です。冠寄附と通常分野指定寄附の両方の寄附があった場合の取扱いについて、A案とB案を提案いたしましたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠寄附と冠寄附以外の寄附との助成の整理については、B案とすることになりました。 ・A案の場合は、冠寄附と分野指定寄附があった場合、「分野指定寄附」は翌年度に持ち越すこととなるため、翌年度以降も、このような事態が発生する可能性がある。 ・B案を採用するが、「冠寄附者と助成申請者に誤解を招かないように告知を工夫すること」というご意見をいただきました。 <p>次にP14です。</p> <p>平成25年度以降の二次審査進出団体の取扱いについてです。</p> <p>①一次審査の結果を集計し、上位団体から助成枠を想定し事務局において少し多めの団体を設定し、委員長に承認していただき市で決定する。ということになりました。</p> <p>次にP15をお願いします。寄附促進の仕組みについて、委員の皆さんにご意見をいただきましたところ、記載のようなご意見をいただきました。</p>
--	--

	<p>今後も、委員の皆様から多様な視点からのご意見をいただき、事務局で事業に反映できるように、検討して参りたいと思います。</p> <p>確認事項については以上でございます。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>ずいぶん前になりますので、改めて記憶を甦らせていただければ幸いです。</p> <p>ただいまの説明について、委員の皆様から、何かご質問やご意見はございましたらよろしくお願いいいたします。</p> <p>特に、ご質問なども無いようですので、先に進ませていただきます。</p> <p>議題の2番目でございます。</p> <p>議題2 平成25年度助成事業予算について</p> <p>お配りしております、資料2をご覧ください。平成24年4月から10月までにお寄せいただいた寄附金を、平成25年度の助成事業に活用するという本来の姿になっております。</p> <p>この委員会では、一般寄附にいただいた寄附金を、どの分野にいくら助成するのかについてご審議をいただきたいと思ひます。</p> <p>それでは、内容について事務局からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日配布をいたしました、資料2をご覧ください。まず上の表をご覧ください。これは4月から10月までにいただいた寄付金について、25年度の助成の充当先を整理した表でございます。</p> <p>順に説明をいたします。寄附者の欄ですが、株式会社コスギ不動産さんは、冠寄附として100万円をいただきました。内訳としましては、平成25年度は、「環境保全」の分野に、平成26年度は、「まちづくり」の分野に、「2年間で支援を行いたい」とのご希望です。ということで、まずは「スタートアップ助成」に10%の10万円を回しまして、残りの90万円を半分ずつ、平成25年度が「環境保全」に、平成26年度が水色で色づけしています「まちづくり・地域安全」の分野に冠基金を設定いたします。</p> <p>次に、株式会社えがおさんは、同じく冠寄附として100万円をいただきました。10%を「スタートアップ助成事業」に、残りの90万円を「保健・医療・福祉」の分野に希望されました。</p> <p>以下、寄付者AからIまでの9件につきましては、冠寄附以外の分としまして、「分野指定」と「一般寄附」ということとなります。</p> <p>「分野指定寄附」につきましては、それぞれ、寄付額の10%を「スタートアップ助成」に回した上で、その他の90%を、それぞれ希望される分野に充当しております。</p> <p>「一般寄附」につきましては、B、D、E、G、Hを、そのまま充当しております。その結果、表の一番下の合計欄が「分野指定・一般寄附・スタートア</p>

	<p>ップ助成」に充当される額の合計となります。</p> <p>事務処理上、ルール化が必要なことが出て参りました。</p> <p>※1で記載していますが、寄附者（I）の欄をご覧ください。寄附金は22,606円ですので、10%は2,260円となりますが、分かり易くするため、千円未満は切り捨てとし、「スタートアップ助成」に充当する単位は、千円単位とさせていただきたいと思ひます。</p> <p>次に、下の表の左の列をご覧ください。オレンジ色で「合計を転記」と書いてある列です。平成25年度の助成金にあたる寄附金です。</p> <p>これは、上の表の合計の欄を、そのまま転記しているものでございます。</p> <p>「保健・医療・福祉」の分野は、冠寄附が90万円、「環境保全」は、冠寄附が45万円、通常の寄附金が1万8千円、「生涯学習」は分野指定が9万円、「文化・芸術」は2千円、「まちづくり」が20,606円、「一般寄附」が19万円、「スタートアップ助成」が21万4千円となっています。</p> <p>この中の、黄色の網掛けの部分、「一般寄附」19万円について、どの分野に、どのように割り当てるかを、ご審議いただきたいと思います。</p> <p>では、右側の黄色で「一般寄附振り分け」と記載した列をご覧ください。これを、事務局(案)として提示をさせていただいております。</p> <p>「生涯学習」に9万円の寄附がありますので、ここにプラス1万円。</p> <p>「まちづくり」には、20,606円の寄附がありますのでプラス9万円。</p> <p>「スタートアップ助成」には、21万4千円の寄附がありますので、プラス8万6千円を、それぞれ振り分けるという案でございます。</p> <p>もうひとつ、事務処理上ルール化をしたいと思います。</p> <p>※2で記載していますが、「環境保全」には、分野指定として1万8千円、また「文化・芸術」には、2千円の寄附がありました。</p> <p>そこで、分野ごとの助成は寄附金が5万円以上の場合に行うこととしたいと思います。また、分かり易くするため、予算額の単位は、万単位で行うことにしたいと思います。なお、その際に1万円未満の端数が発生した場合は、翌年度に繰り越すこととします。</p> <p>これらのことを踏まえまして、オレンジと黄色の合計として、緑色の平成25年度の助成金予算総額（案）をご覧ください。</p> <p>順に読み上げますと、「保健・医療・福祉」に冠寄附が90万円、「環境保全」には、冠寄附が45万円です。</p> <p>※2にあるように、「環境保全」の1万8千円については、次年度に繰り越します。「生涯学習」は10万円。「文化・芸術」については、平成25年度の助成額は0とし、2千円を次年度に繰り越します。</p> <p>「まちづくり」につきましては、11万円で、606円の端数は、次年度に繰り</p>
--	--

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

	<p>越します。また、冠寄附としては、平成26年度になります。</p> <p>また、「スタートアップ助成」については、30万円。</p> <p>一般寄附に残った4千円は、次年度に繰り越をさせていただきます。</p> <p>以上を合計しますと、平成25年度の助成金予算総額は、186万円で、次年度への持越しが、474,606円となります。</p> <p>合計しますと、寄附額の2,334,606円になります。</p> <p>寄附金の充当につきまして、事務局(案)をご説明させていただきました。</p> <p>よろしくご審議をお願いいたします。</p>
明石委員長	<p>集まった寄附金の配分についての基本的な考え方と、その考え方に基づいた配分の案を事務局から提案をいただいたところでございます。</p> <p>事務処理の合理性を考えた上でのご提案かと思いますが、基本的には、問題ないのではないかと思います。委員の皆様はいかがお考えでしょうか。</p>
前田副委員長	<p>単純に確認ですけれども、平成25年度の「文化、芸術、スポーツ、国際」への助成は無いということですか。</p>
事務局	<p>この分野につきましては、寄附が2千円ということでしたので、次年度の助成は無いという形で、ご提案をさせていただいております。</p>
明石委員長	<p>副委員長が仰っているのは、いろいろな項目があるが、そこに寄附が無い場合や額が5万円に満たない場合は、事務処理の都合上、項目が0になってしまうけれどもこれでいいのかという質問かと思いますが、事務局はどのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>「万遍なく、それぞれの分野に振り分ける」という案も、あるかと思いますが、今回の場合、一般寄付で振り分ける額で考慮しますと、これまでの様々な申請事業を見てみましても、大体、一つの分野の助成額は、10万円以上となっておりますので、できるだけその10万円という形を、一つの単位とし寄附を多くいただいた分野に、重点的に振り分けさせていただくという事務局案でございます。</p>
明石委員長	<p>先々、テーマによっては、全く寄附が無く名前だけはあるが、実績が上げられないこともありえるわけですが、そのあたり皆様いかがですか。</p>
宮本委員	<p>寄附が多い分野だけの助成になっていくより、できるだけ全分野に低い金額でも助成枠があった方が良くはないかと思います。</p> <p>それに該当者がいなければ、次の年度に繰り越すこともできるのではないのでしょうか。</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

明石委員長	事務局からお願いします。
事務局	提案させていただいている案では、「まちづくり・地域安全」に、9万円を一般寄附から充当いたしておりますが、その半分を「文化・芸術・スポーツ・国際」に充当することも可能と思います。助成事業の助成金下限が5万円ですので、「文化・芸術・スポーツ・国際」に5万円、残りを「まちづくり・地域安全」に充当するということ是可以できると思います。
明石委員長	<p>他、ご意見等はありませんか。</p> <p>今回は、寄附が集まって初めての配分なので、なかなか、「これだ」という案は難しく出しにくいとは思いますが、考え方として、初年度は事務局案でどうでしょうか。</p> <p>もしくは、先ほど事務局から修正案として、5万という助成額の単位を守る形で、「文化」と「まちづくり」どちらにも配分する、その修正案を採用するのか、いずれかだと思いますが、皆様方がいかがでしょうか。</p>
水野委員	<p>申込みの分野は、たくさんあったほうが良いと思いますが、「文化、芸術、スポーツ・国際」に助成しましょう。というのが、「5万円に満たなかったので、今回はこの分野の助成はありません。」と打ち出すことによって、「何だ、熊本市に住んでいる人は、そこに興味がないのか、俺はここだ」と関心を持っていたら、「この分野に出すぞ」という事に繋がればいいのかという気がするので、逆に、「今回この分野の助成はありません。」と思いきり打ち出して、無しにしてもいいのかなという気もしています。</p>
明石委員長	<p>水野委員が言われていることは、寄附の集め方の話にも繋がりますが、この寄附が全く集まっていない「文化、芸術、スポーツ国際協力」の分野の掘り起しをする意味で、あえて配分無しとした方が後に続くのではないかとのご意見ですが。その辺りいかがでしょうか。</p>
前田副委員長	<p>PRやモチベーションの与え方は、いろいろとあってもいいと思うのですが、（表の赤い部分の）11万を、上の「文化、芸術、スポーツ・国際」に5万入れて、「まちづくり・地域安全」も5万にするといった話で、その案を採用する場合も、このまま11万の予算組をした場合も、申請が何件もあり一位の申請が11万あったら、二位、三位の優れた申請は、審査上採用しないということですか。</p> <p>蓋あけてみないと、どのような申請がくるかわからないので、想定したようにはうまくいかないのではとも思うし、審査との関係はどうなるのでしょうか。何件選べば良いのか等混乱しはしないかと思いますが。</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

明石委員長	事務局から何かご意見等ありましたらお願いいたします。
事務局	審査上、予算額の範囲内で団体数は決まってくるかと思いますが、一番目の団体が、額を全て使えば二番目以降は採用されないということになるかと思えます。
明石委員長	<p>色々、ご意見もあろうかと思いますが、具体的にどのような申請が出てくるか分からない中で、先を見越して予算の配分というのも難しい話ですので、今回とりあえず事務局原案を認めていただいて、次年度、また問題があれば考えるということで、水野委員の言われた「文化、芸術、スポーツ、国際」の寄附が少なかったということも、幅広く広報をしていただき、次年度以降、手厚く寄附を募っていくということで、今回決めさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(委員 了承)</p> <p>それでは、事務局提案の予算の配分については、原案のとおり、お認めいただくということでもよろしくお願いいたします。</p> <p>寄附は、事務局の予想どおりかそれともまだまだなのか、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>毎年度300万円程度の助成が出来ればよいなど、はっきりとした目標ではありませんがそのように考えています。それからしますと、今年度は、半年分10月までの予算を立てているわけですが、どれだけ来年度の予算を積むかということも、10月で寄附を閉めた上で出さざるをえないといったところです。今回は、180万円ちょっとの助成額となっておりますが、年間寄附としましては、233万円程度で、目標に対しては、あと70万円程必要かなという、伸び悩み状態でございます。</p> <p>寄附の集め方に工夫がいると思います。初年度としましては、ある程度集まったという思いもございます。</p>
明石委員長	今回、230万円の寄附が集まっておりますが、取り崩し型で使ってしまった後、その先の見通しはどうなるのかなと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。
事務局	来年度に繰り越した分で、47万円程ございますので、その分は、確保できると思います。来年も引き続き寄附集めに力を入れ、今年度分ぐらいは寄附をいただきたいと思っております。寄附金付の自動販売機は、設置台数が、まだ増えてはおりませんけれども、この分も想定できますが、出来るだけ25年度

	<p>水準を下回らない形で助成が出来ればと思っております。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>その他、委員の皆様方からご質問等ありませんでしょうか。他にないようでしたら先に進ませていただきます。</p> <p>議題3 その他の審議事項について 事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3をご覧ください。</p> <p>4月からこれまで基金の制度について、運営委員会でご審議いただきながら、制度の詳細について積み上げてまいりましたが、運用する中で問題や課題が浮かび上がり、平成25年度の助成事業の募集の前に整理を行いたいと考えています。問題点が2点と課題が1点、報告事項が2点でございます。</p> <p>では、順番に説明をいたします。</p> <p>まず、「1 登録団体の資格要件について」です。</p> <p>基金の実施要綱の中で、構成員が10人以上であることということで、進めてまいりました。この根拠は、平成23年度に実施した、アンケート調査の結果75%の団体が、10人以上であることから、10人以上の団体としていました。しかし、実際に、登録説明会やあいぽーとへの相談の中で、設立後3年を経過したけれども、10人いないため、登録できないということが、複数ありました。そもそも、この基金は、民間の助成金などに申請するような、組織的な力のない団体を支援し、育てることに重点をおいていることから、資格要件を構成員10人以上から、5人以上であることに変更したいと考えています。</p> <p>次に「2 市から運営補助金を受けている団体の登録について」です。</p> <p>これも、要綱の中で定めており、団体登録の時点で運営補助金を受けていない団体との複合体である旨の団体概要書の提出が必要となっております。</p> <p>事務局で記載例を作り、事務を進める中で疑義が発生しました。</p> <p>団体登録の際に複合体の相手を決めると別の団体と協働で事業をしたいとき、再度の団体登録の申請を要するため、団体への説明がわかりづらいという点でございます。現在のところ、運営補助金を受けている団体の登録はないことから、団体登録は、単体でも登録できるが、助成申請は市から運営補助金を受けていない団体と協働で事業を行う場合に限り申請できることとし、協働で行うことを証する書類の提出が必要ということに変更したいと考えています。</p> <p>次に「3 審査基準の課題について」です。</p> <p>第3回の委員会において、事務局から提案させていただいて「地域の課題・特性（熊本らしさ）」については、2倍の重みづけをすることとなりました。</p>

	<p>その理由としましては、政令指定都市になったのを機に制定された基金であるので、東京や大阪のような大都市ではない「熊本市らしさ」を大切にできるような基準にしたいということでした。</p> <p>しかしながら、24年度の助成申請を実際に見てみますと、「地域の課題・特性（熊本らしさ）」という点について、まだ、十分に理解されていない点、2倍の配点とうものが妥当なのかというような課題も見えてきております。</p> <p>このことに対して、今後のあいぼーとの役割といたしまして、助成申請の説明会で、各審査基準を想定した具体的な事例を交えての記載例の説明ですとか、各団体の提案事業の相談の際、「熊本らしさ」について支援を行っていきたいと考えております。2倍の配点を無くすという考え方もあるかとは思いますが、大都市とは違う地方の政令指定都市の色を出して「熊本らしさ」を引き出し支援していくという考え方もあり、事務局としては、2倍の重み付けのまま、支援の部分をあいぼーと等で充実できるようにしたいと考えています。</p> <p>次に報告事項です。</p> <p>「4スタートアップ助成への充当する単位について」と、次の「5助成金予算額の単位について」でございます。</p> <p>資料2でも説明をさせていただきましたが、分野指定寄附と冠寄附の10%をスタートアップ助成に充当する場合の単位は千円とし、分野ごとの助成金予算額は万単位とし、1万円未満の残金は、次年度に繰り越すということでございます。説明は以上でございます。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>ただ今の説明について、委員の皆様からご意見ご質問をいただきたいと存じます。ご意見をお願いします。</p>
<p>前田副委員長</p>	<p>審査をした結果、「熊本らしさ」といった点が「政令市になったから、他と違う」といった説明も甚だ曖昧でありまして、そもそも審査項目に入れていいのかと悩むほど、曖昧な基準じゃないかという実感があるんです。それで、あいぼーとで説明されるということであれば、どういった説明があるのか、どういう説明であれば事業に反映されるかなとは思いますが、うまく説明できるのだからかと思えます。また、説明をされて「なるほど」と思えば、（採点基準として）入れてもいいかなとも思えます。</p> <p>採点基準の5項目の一つとして残すのは良いかなと思えますけど、ただ、これを2倍にするとなると曖昧なものに対してそれほどの議決権を与えることに対して、第三者に説明を求められたとき、理屈が通らないのではないかと思います。</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

<p>明石委員長</p>	<p>要は「熊本らしさ」がといったものが、どういうものなのかと、それが明確にならないと採点も出来ないし、他から説明を求められた時に明確な回答が出来ないのではないだろうかというご意見です。前回の運営委員会では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊本らしさ」が、重点的に評価されることに関しての事前説明も不十分だったために、申請側が関心を寄せていなかった。 ・事前の説明段階で、「熊本らしさ」を強調するような申請書の作り方なり、プレゼンのやり方なりを考えてもらうようにもっていくべきではないか。 <p>といった意見が出ていました。</p> <p>今日の副委員長からのご意見は、元に戻って、そもそも「熊本らしさ」を、2倍の配点としての重みづけのまま、評価項目として残すことが妥当かといったご提案でした。委員の皆様はどのように思われるか、ご意見を聴かせていただければと思います。</p>
<p>水野委員</p>	<p>2倍点がどうなのかというのは考えるところではありますが、こちらから「これが、熊本らしさですよ」と提示する必要は無いのかなと思います。「熊本らしさ」を考えていただく。皆さんの活動によって、熊本市を、どんなふうにしていきたいのか考えてもらう機会にして、「熊本らしさ」を創っていくために、助成金をどのように活用するのかというところを書いてくださいね。という説明が出来れば良いと思います。「熊本らしさ」を考える機会にしてほしいし、考えた上で活動してほしいという気持ちがあって、この項目があると私はとらえます。ただし、それで2倍点というのもどうかと思います。</p> <p>おっしゃるように、他から説明を求められた時には困るかもしれませんが、気持ちとしては、2倍するぐらいの気持ちで団体さんには考えてほしい。2倍になるのだから、そのぐらい真剣に考えて活動してほしいという気持ちはあります。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>最終的には、点数の1点か2点かの問題で、お二人のご意見を聞いていると、どちらとも「そうだな」という感じはしますが、私たちが知っている「熊本らしさ」は水もですけど、言葉とか人と人との繋がりとか、まだ他にもたくさんあると思うので、採点する側としたら、それぞれが「熊本らしい」と感じて点数を入れますから、(審査員)全員がそう感じないかもしれないし、そこは、(それぞれの)捉え方でいいのではないのかと思います。</p> <p>最終的には、1点なのか2点なのかになりますが、2点にすると点数に幅が出てくるので1点でもいいのかなと思う気持ちは、前回の点数を付けているときに思いました。</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

木下委員	<p>人と人の繋がりで評価するのか、組織ぐるみで取り組んでいけば評価するのか等難しいとは思いますが、「熊本らしさ」が応募の中で出てきたら、それを上手に評価してあげたらそれでいいのかなと思います。</p> <p>どちらか甲乙付け難い意見になりましたが。</p>
明石委員長	<p>皆様方のご意見は、審査項目として「熊本らしさ」を挙げるのはいいが、それを一律2倍にするという点に関しては、意見が分かれています。本当に2倍の重みづけでいいのかどうかということですね。事務局としては、どう思われるのか。是非2倍でということなのか。もしくは、他の項目と同じように、1点でも構わないということなのか。お聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>「熊本独自の地域課題」というものに、焦点を当てた取り組みに対して、厚く評価し、判断することを、熊本市の基金の特徴にしたいという点はございます。ですので、熊本らしさというよりも、「熊本独自の地域課題等に着目した取り組み」であるか。それに対して、どのように取り組もうとしているかという点を評価していただければと思います。なかなか、事務局の方でも「熊本らしさ」がこういうものだ、と一律に決められないとは思いますが、「これとこれはこういう形でいって」と指導するものでもないと思っておりますので、地元のために活動したい。という目的がある団体には、強くそこをアピールもしくは提案していただくといった指導を、あいぼーと等を通じてできればと思っております。</p>
明石委員長	<p>現行では重み付けが2倍になっていますが、それは、やはり維持したいのか。他の項目と同じように扱うのか。委員の皆さんの意見は、分かれています。その辺りについて、市の考え、取り組みとしてはどうなのかをお聞かせいただければと思います。</p>
前田副委員長	<p>そもそも、2倍というのはどこから出てきたのでしょうか。</p>
平塚委員	<p>それに関しては、設立準備の時、委員さんの中からこの「熊本らしさ」の話が出たと聞いています。ただ、私も採点に携わって、福祉とか子育てだとかそういう分野の団体には「熊本らしさ」というものが難しいから、そういう団体は不利になることも考えられると思います。2倍というのはいかがなものかと思えます。例えば、委員さんに持ち点が3点あって、大変良いものに3点入れるなど点数の持たせ方もあろうかと思えます。ただ2倍となれば、差が付きすぎると思えます。</p>
前田副委員長	<p>単純に計算すると、(審査項目が)5項目ある中で、1項目が2倍になっていますので、一人持ち点が18点ですが、そうすると、「熊本らしさ」のところだけで、3点を付けた場合には2倍して6点になりますから、3分の1になっ</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

	てしまいます。一つの項目だけで、3分の1の議決権を与える程の項目ではないのではないかとということと、仮に、普通に2倍せずに点を付けて「熊本らしさ」の項目の点数が高かった団体を優先するといことなら分かりますが、要するに、みんな点のつけ方が一律だから、突出したところが評価される訳で、最初から飛び出しているとは扱いが難しいし、説明がつかないのでは。平等の重みを与えた上で、明らかにそこが突出しているから、その所を評価するのだったらわかるけど、要は2倍の説明を求められたときに、説明できないのではないのかと思います。
明石委員長	副委員長さんのお考えは、最後、決める時に、「熊本独自の地域課題の解決」を目指して資金を使ってこの事業をやろうと、そこを評価するのだったらわかるという事ですよ。
前田副委員長	はい、そうです。
明石委員長	だから、そういうやり方に2倍というのはなっていないでしょうと。始めから、無条件に、優先権を与える話になっているので、順番が逆じゃないか。と言ったお話だと思います。むしろ、同じ条件で、比較をして、横並びの場合「熊本らしさ」があるから、一押しして採用する。ということなら分かるが、初めから2倍になっていると、スタートラインが違うのは、フェアではないし、説明を求められた時にも説明できない。というご意見なんですけど、これは委員の皆様のご意見も最終的には、そういう事かなと思います。2倍というところを見直す。という…形かとは思いますが、今日の時点で、どういう決め方をすればいいんですか。
事務局	平成25年の募集を、12月に入りましたら始める必要があります。助成案内の中に、審査基準についても、書き込むことにしていますので、できれば、ここで決めていただきたいと思います。この2倍ということも、この委員会の第3回の中で決めていただいたものでして、事務局の方で、この2倍というのが、絶対に必要ということで、こだわっているわけではございませんので、この件も今日決めていただければと思います。
明石委員長	この委員会で、2倍というのを決めたのは確かに記憶がありますが、先程、副委員長からのご提案にもあったように、この「熊本らしさ」を2倍にしなくても、横並びでほぼ同じような時の最後の決め手としてやるなど何か考えられないかと思いますが、いかがでしょうか。
前田副委員長	やってみましょう。で、やってみただけど、結構、難しかった。ということではないかと思いますが。いかがでしょうか。
平塚委員	そうだと思います。2倍は、外しては。

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

事務局	<p>では、審査の段階で、合計点が同点だったと言った場合に「熊本らしさ」の高い方を選ぶとか。そういう形で、この部分の重み付けを見るというのは、いかがでしょうか。</p>
明石委員長	<p>今、事務局からの提案は、皆さんのご意向に沿う形かと思いますが、最後、同点となった時とか、甲乙つけがたい時、「熊本らしさ」の評価の高い方を選ぶ。というやり方ではどうか、という形ですが、事務局からも説明がありましたように、12月には募集を始めるため本日決めないといけませんので、「熊本らしさ」の評価が高い方を選ぶという事ではどうか。と言ったことですが皆様方いかがですか。「熊本らしさ」の2倍というのは外すという事でよろしいでしょうか。最後に、甲、乙つける場合に、「熊本らしさ」の評価が高い方を選ぶというルールを設定させていただくという事でよろしいでしょうか。事務局の方も、このような整理でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。これに伴い基準点の方が動いてきますので、整理をした上で委員長にご確認をお願いしたいと思います。</p>
明石委員長	<p>微調整は、委員長の方で確認させていただくことで、委員長預かりとさせていただきます。</p>
明石委員長	<p>それでは、ただ今、審議事項の1、2、3の3を先にさせていただいたのですが、では1、2番の方をご確認させていただきます。</p> <p>まず、登録団体の資格要件については、構成委員が5人以上に変更、これは、よろしいでしょうか。次に、市から運営補助金を受けている団体の登録について、登録と申請を分けて考えようという整理をされたわけですが、その方が合理的かなと思いますので、お認めをいただいでよろしいでしょうか。</p> <p>最後の3については、2倍をなくして、「熊本らしさ」の評価の高いほうを選ぶという事でさせていただきます。それから、4番5番は事務処理上、こういう形を取らせていただきたいということですのでよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは他にご意見等ないようですので、先に進めさせていただきます。</p> <p>議題の4番目でございます。資料の4「平成25年度くまもと・わくわく基金助成事業のご案内(案)」をご覧ください。これまで、ご審議をいたしました、内容の総まとめになりますので、事務局からご説明をお願いします。</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

事務局	<p>ご説明いたします。基本的には、「平成24年度助成事業のご案内」を修正しています。それから、変更したところなどを黄色のマーカーで色づけをしています。黄色のマーカー部分について説明を行います。</p> <p>それでは、P1の「2助成対象事業」の(7)事業期間ですが、平成25年4月1日から平成26年3月31日までとします。</p> <p>次に「3助成事業の種類及び助成金予算総額」ですが、資料2でご審議いただきました、金額を記載しています。</p> <p>資料の2をご覧ください。助成金予算額は、同じく資料2の金額を記載しています。2つの分野が冠寄附ですので、100万円の寄附をいただいたことがわかるように、※2に、表記しています。</p> <p>次にP4です。審査基準については、前回も、審査基準を掲載していましたが、配点を公表していませんでしたので、今回は事前に公表をします。</p> <p>また、配点につきまして「地域課題・特性(熊本らしさ)」の2倍というところは、先ほどご審議いただきましたように修正をさせていただきたいと思いません。</p> <p>前は基準点を公表していませんでしたが、今回はP5にありますように、基準点を掲載したいと思いません。こちらも2倍のところを修正した上で、基準点を載せたいと思いません。</p> <p>次にP8です。基金からの助成による事業であることを、事業実施の際パンフレット等に記載していただくように具体的に説明をしています。</p> <p>また、P9には、寄附をいただいた方で公表を希望する方のお名前を掲載させていただいています。さらに、継続的な寄附につながる「社会貢献型自動販売機の設置事業者」と「冠寄附者の3者」をご紹介させていただいています。資料4についての説明は以上でございます。</p>
明石委員長	資料4についての説明について、ご意見等ありましたらお願いいたします。
水野委員	<p>P4の審査基準のところ「熊本独自の地域課題(地下水保全や町屋保全など)に焦点を当てた取り組みである」という言葉自体が、逆に難しくしている。と思いません。そこを「どんな熊本にしたいと思っているのか」とか「助成金をもらうことによって、どんな風に、それを、熊本のこれからは繋げていきたいのか」など、「熊本らしさ」を考える事が出来るような提案文章にした方がいいのかな。と思いません。その上で、あいぼ一とに相談にいらっしゃった時に、あいぼ一との方がきちっと把握していて、そのことを伝えていただければ書けるのかなと思いません。</p>
前田副委員長	私も、先ほど申し上げましたが、「地下水保全、町屋保全」と書くと、それを利する事になるので、返ってよくないような気がします。また、政令市になっ

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

	<p>たから東京、大阪とは違うと言った説明もすごく行政的であって、少し、おかしな話ではないかと思えます。沖縄と違ってもいいし、八代と違ってもいいし、100万都市だから出来る話、熊本だから出来る話という事であって、「熊本をこうしたい」「熊本への愛着を示してください」みたいな方が、先ほどの議論からすると、流れとしてはいいのではないかと思えます。特定の地域や分野を利するような言い方はせずに、東京、大阪との違い等も言ってしまうと、混乱するのではないのでしょうか。その辺のところは、策を立てていただければと思えます。</p>
明石委員長	<p>他、何か皆様方ご意見等はありませんか。</p>
平塚委員	<p>確認ですけど、P9に市の職員が入っていますが、この人たちは公表していいと言っているのでしょうか。</p>
事務局	<p>1人は承諾をいただいています、もう1人は今確認中です。基本的には、ホームページでも公表はしているところです。最初に公開してよいかの確認はいたしておりますが、今回改めてこの部分については確認致します。</p>
明石委員長	<p>はい、それでは今までの議論をいただいた点を踏まえて、修正すべき点は修正させていただき、この内容で募集の事務を進めさせていただいてよろしいでしょうか。確かに「熊本らしさ」の説明から「地下水・町屋」等の表現は、外していただいた方がいいかと私も思います。</p> <p>それでは、他ご質問等ないようでございますので、先に進めさせていただきます。</p> <p>議題の5番目、その他報告事項</p> <p>資料の5「平成24年度助成団体中間報告会&交流会のご案内(案)」をご覧ください。事務局からご説明をよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>議題5 その他報告事項</p> <p>「資料5 平成24年度助成団体中間報告会&交流会のご案内(案)」を説明いたします。平成24年度の助成事業が9月に決定したところです。10月12日に、決定団体に集まっいただき資金源としての助成金の意味、申請書の書き方や市民への伝え方などについて説明を行い、助成対象事業がスタートいたしました。</p> <p>この「中間報告会と交流会」は、助成事業の進捗状況を見てもらい、団体にとっては更なる支援者を見つけたり事業のステップアップにつながるような出会いがあることを期待しています。これから、申請しようと考えている団体にとっては、発表団体がお手本になると思えます。また、寄附者は寄附が、どのような使われ方をしているのかを確認していただいたり、この交流を通し、</p>

	<p>寄附だけではない支援につながるかもしれないというところで考えております。行政職員にとっては、市民活動団体が何を目標に活動し、どんなまちづくりに関心を持っているのかという実態を知る機会になったり、各区にどのような団体が活動しているか、実際に見たり話をしたりすることでつながりが生まれるのではないかと考えております。そのようなつながりや広がりが生まれることを期待し企画をしました。開催日は1月11日の17時半からになります。委員の皆様方におかれましては、お時間がございましたら、ぜひお越しください。以上報告でございます。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>それでは「中間報告会、交流会の企画案」について、ご説明をいただいたところです。「何かこういうことをしたらいいのではないか」等、ご提案等は無いでしょうか。特に無いようでございます。</p> <p>今回初めての取組みという事で、実際やってみたら「こうすれば、良かったな」と言ったところは、これから出てくると思いますので、今後の寄附を安定的に確保する、或いは活動団体の活動をいかに活性化するか、そのような仕掛け・仕組みづくり。また、人のつながりが出来れば、これをきっかけにいろいろなネットワークができたらいいいし、市の職員の方々にも「市民との協働」ということで理解を広めてもらういい機会に、今後の新たな発展につながるような、そのような役割をこの交流会が果たしてくれることを期待していきたいなと思っております。</p> <p>それでは、最後に、議題の6番目「次回の開催日程」について、ご審議いただきたいと思っております。</p> <p>今回は、少し時間が空きますが、平成25年度の助成事業の書類審査の後、第6回運営委員会の開催となりますので、今後のスケジュールと合わせて次回開催日程について、事務局からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題6 次回の開催日程</p> <p>「資料6 今後のスケジュール(案)」をご覧ください。</p> <p>委員長から説明のありましたとおり、今回は平成25年度の助成事業の審査会を開催しますので、時期は年度末になります。</p> <p>それでは、順を追ってご説明させていただきます。</p> <p>12月に入りますと、すぐに平成25年度助成事業の募集を開始します。助成説明会を12月26日に開催し、募集の締切りは1月25日を予定しています。その後、あいぽーとで精査確認を行い、冠基金の事業に関して団体名、事業名、概要が企業の経営理念に反しないかどうかについて冠企業にご確認いただき、委員の皆様方にその情報も合わせ書類一式をお持ちいたします。予定としましては2月6日を予定しています。</p> <p>その後、委員の皆様からの回答は2月25日までにご返送いただくように考</p>

第5回基金運営委員会会議録概要 H24.11.19

	<p>えています。その回答を集計し、二次審査に進出する事業を選定し、委員長にご確認いただき決定するという流れで進めたいと思います。</p> <p>それで、次回の運営委員会は3月25日（月）でお願いをしたいと思います。できるだけ半日で調整できるようにと考えていますが、3月上旬の二次審査進出団体の決定までは終日空けていただきますようお願いいたします。</p> <p>年度末のお忙しい中、ご迷惑をおかけしますがどうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>第6回運営委員会は、3月25日を予定しております。委員の皆様方には事前にお尋ねはさせていただいておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>審査の件数にもよりますが、かなり時間が長くなる可能性があります。時間場所につきましては、事務局より連絡していただくようになると思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日、一番大事な予算の配分、これの確認をいただきましたのと、基本的なルールの確認をいただき、非常に貴重なご意見をいただきました。</p> <p>また、「熊本らしさ」は何かということの2倍ははずすということで、この辺についても考え方の整理をしていただいたところです。</p> <p>今日、整理をしていただいた考え方が一番素直なのかなと思います。</p> <p>実際の募集につきましては、事務局からご提案いただきました内容で、これからいろんな形で広報等させていただきますので、何卒よろしくお願い致します。それでは他にご意見等もございませんでしたら、本日の委員会はこれをもって終了とさせていただきます。</p> <p>本日の議事録等につきましては、次回の資料と一緒に送らせていただきますので、ご確認のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それではお疲れさまでした。</p>